

「六道御前」一人芝居につぐ第2作！

石牟礼道子作

草文

—西南役伝説より

「西南役伝説」について

解説 赤坂 審雄

聞き手 笠井 賢一

出演

石橋 敬子

吹き物

八田部 鉄

構成・演出

笠井 賢一

設楽

瞬山 鉄

演出

2025年5月25日(日) 15時開演
入場料・4000円 鎌仙会能楽研修所



解説「西南役伝説」について

序章 『深川』

わしども、西郷戦争ちゅうぞ。十年戦争ともな。一の谷の熊谷さんと敦盛さんの戦は昔話に聞いたつたが、実地に見たのは西郷戦争が初めてじやつたげな。それからちゅうもん、ひつつけひつつけ戦があつて、日清・日露・満州事変から、こんだの戦争ー。西郷戦争は思えば世のなかのひらくる始めになつたなあ。

拾遺二 『草文』

おなごのな、色じんけい殿のおりよらしたばい。
「兄しやま！」ちゅうて呼びかけてな、「おえんしやま
なあ、びつくりした」ちいえば、しをしをしてなあ、
後向いて往つてしまいよらしました。

あんまり小愛らしか声じやけん、いつへん呼ばれた
ものは、その声の耳にひつついて忘れきれんち云い
よつたばえ。

「おえんしやま、その袋ん中にや、なんば入れておん
なはるな」そう聞けばにっこり笑うて、後ろに隠し
てな、「櫛とー、紅とー、文とー」

文ちゅうのはな藁をばな、ただ結んで

あるのがはいつておりよりました。

なんの意味じやつたよな、あの文は。

赤坂
笠井
聰一
赤坂
笠井
憲雄

八田部
鉄

吹き物
設楽
瞬山
吹き物
設楽
瞬山

構成・演出
笠井
賢一

出演
石橋
敬子
出演
石橋
敬子

構成・演出
笠井
賢一

石牟礼道子 1927年 熊本県天草郡生まれ。詩人・作家。「苦界淨土」わ
が水俣病」は文明の病としての水俣病を鎮魂の文学として完成させた。マグ
サイサイ賞、紫式部文学賞、朝日賞、芸術選奨文科学大臣賞受賞。著書にはに
かみの国「石牟礼道子全詩集」「石牟礼道子全集」「不知火」を藤原書店より刊
行。作家としてのすべてが凝縮された新作能「不知火」は東京、熊本、2004
年には水俣で奉納上演された。多田富雄は新作能の類型を破る画期的な作
品と評価した。現代の病巣を癒す力と深い祈りと歌に溢れた作品群は日本
文学の枠を超えた重要な文学として、ますます示唆に富んでいる。

石牟礼文学は私たちに残しよいてくれた「草文」であり、形見である。
渡辺京一

『草文』という道標
おえんしやまという童女のままの狂女が、藁を結んで指で輪を作った程のこ一まんか輪さを結んで、方々に残しよいていった草文。山行きさんたちの通りかかって、「あら、おえんしやまの通らしたばいな」ちゅうて、山鉾の先でつっかけてみて、「ほう、可愛らしか、草の文結んでこぼしてあるよ」「誰に遣んなさる草文じやろうか」「真実なあ、蕗ん子取りに行くときの道の標ぞ」

『草文』という道標

おえんしやまという童女のままの狂女が、藁を結んで指で輪を作った程のこ一まんか輪さを結んで、方々に残しよいていった草文。山行きさんたちの通りかかって、「あら、おえんしやまの通らしたばいな」ちゅうて、山鉾の先でつっかけてみて、「ほう、可愛らしか、草の文結んでこぼしてあるよ」「誰に遣んなさる草文じやろうか」「真実なあ、蕗ん子取りに行くときの道の標ぞ」

2025年5月25日(日)
15時開演(45分前開場)
於 鍛仙会能楽研修所

東京都港区南青山4-21-29 03-3401-2285
交通)地下鉄「表参道駅」A4出口より徒歩3分

入場料4000円(全自由席)

お問合せ・お申込はアトリエ花習
TEL 090-9676-3798

✉ mail@atelierkashu.com
ホームページより申込フォームへ→

